

パルのつどい

意外と知らない身近な「お茶」 「熱湯はダメよ」

10月18日 深野パル委員会

26名参加



深野パル委員会のメンバーで以前訪れた「COOP抹茶」の製造工場見学が「ためになったし、おいしかったので、今回のパルのつどい

いに選んだという委員長の福井さん。「知っているつもりでも、もっとおいしいお茶が飲めたらいいなと、ちきりやの津川さんを講師にお茶の効用や製造方法などを学びました。質問がたくさん飛び出し、急須に入ればなし、飲んで大丈夫?」「津長く置かれていた場合は、お茶葉が酸化します。

交換しておいしいお茶を!」「子どもに緑茶(ごうなん?)」「津カフインが含まれていますので、1歳未満の子どもさんにはほじ茶を。それ以上なら、むし歯予防にもなるので緑茶は食後におすすめてす」など意外と知らない身近なお茶の理解が深まりました。

参加者の感想

初めて知ったことばかりで、いろいろ聞けてよかった。これからの時期、お客さんにお茶を出す機会も増えるし、家でやってみたい。

いつも熱湯に入れていて苦味があっても「こんなもの」と思ってただ、違った。そういえば、親がそうしてたな...と思い出しました。

「CO-OP 静岡深むし煎茶」

- ①人数分の茶碗(湯飲み)にそれぞれお湯を入れて約1分待つ(湯冷まし)
②網のついた急須に「深むし煎茶」を人数分入れる
③茶碗のお湯を急須に入れて、蓋をし1分待つ
④茶碗に均等になるように廻しつづ(最後の一滴まで)。

煎茶レシピは8面へ

*ちきりや「迎春玉露かりがね大福茶」は12月3日に企画があります



組員活動のコーナー

柱にそって各地域で多彩な取り組みが行われています。その様子を紹介していきます。

組員活動は「食」「平和」「環境」「くらし」の4つの

参加された方にお聞きしました

実際に現地に行き見て感じた現状は、「海岸沿いの小さな港町に至るまですべてが被害を受けたんだ。ここもだ。ここもだ、こんなに広い範囲で大変なことが起きたんだ。7カ月たった今でも大きなものが片付いただけで状況はさほど変わっていない、このままでは良いわけがないよね」と。子どもを家族に任せての参加でしたが、ボランティアで多くの組員さんと一緒に活動できて良かったです。(3回目の10月27日~30日に参加された枚方市・永留さん)

震災直後の報道を見て「困っている方たちのお役にたてることがあれば」とおぼろげながら感じていたので、夏休みの時期にとボランティアに参加し、感じる人が多い貴重な経験でした。テレビでは分からない現場の雰囲気や町の凄惨さを肌で感じ、ガレキ片付けで包丁が落ちているなど暮らしの跡を垣間見ました。悲しさが胸がつかまりました。(1回目の8月27日~30日に参加された西区・吉田さん(大学生))

私ができることをしたい 生協で応募して良かった

大阪府下の生協からの、べ86名の応募された組員さんが3回に分かれて、岩手県の被災地へボランティアに行かれています。パルコープからの4名を含めて31名の組員さんが参加された、3回目10月27日(木)~30日(日)の活動をご紹介します。



「ボランティアに来てよかったです」

組員さんと家族が、「私ができることをしたい」という同じ目的でボランティアに集まりました。自分ができることを力を合せてすることがボランティアの基本であり、生活協同組合の精神にもつながるところがあるのではないでしょうか。今後また、府連でのボランティアのとりくみがありましたら、ご案内します。

大阪府生協連 組員ボランティア

大阪から夜行バスで14時間揺られて岩手県へ。初日の陸前高田市では瓦礫片付け(畑づくり)を行いました。5~6人のグループに分かれて表土を30cmほど掘り返し、土をふるいにかけて異物を除き、もとに戻す作業です(一面の上の写真)。みんなが、この畑にまた農作物が実る様子を思い浮かべながらの力仕事でした。

~ 岩手 被災地ボランティア 活動 ~



NO.6

被災者に寄り添い、絆をつなげる支援活動を

岩手の朝は氷点下まで冷え込んできました。物資班は「みなし仮設」(震災で自宅を失った人が自前で民間の賃貸住宅を見つけた住居)や、遠野市内に避難されている方々にも毛布や布団などの物資届けを拡げています。

また、まごころネットは後方支援の立場から仮設団地と、被災を免れた周辺住民とが繋がるコミュニティーづくりの支援をしています。例えば、復興祭りや復興耕田、被災小学校の合同運動会などが地元住民の方々の主体で開かれるお手伝いです。

パルコープの職員ボランティアは、12月から道路凍結の少ない沿岸部に宿舍を移し、物資をお届けしながら見守り活動を進めていきます。

(NPO遠野まごころネットに常駐する事務局・林さんより)



【第2期第3陣】10月8日~14日 支所職員など12名(内よどがわ生協の方3名・ならコープの方3名)

西留さん(都島支所)、金丸さん(店舗本部)、森川さん(店舗本部)、奥川さん(システム経理部)、阪上さん(よどがわ生協)、津賀さん(よどがわ生協)、粟津さん(よどがわ生協)、中尾さん(ならコープ)、丸山さん(ならコープ)、真砂さん(ならコープ)、藤本さん(東中浜店)、堺さん



ワカメ養殖棚用の土の作り(左端よどがわ生協の津賀さん、左から3番目堺さん)

今年のワカメ収穫1週間前に地震と津波があり、数カ月かけて作ったワカメも収穫できず、震災にあつたと、漁師のみなさんと、来年3月のワカメの収穫に向けて、土の作りを行いました。三陸沖のワカメを、大阪のみなさんへお伝えしたいと感じました。(10月12日 金石市箱崎町 西成支所で阿倍野区と西成区の配達担当の堺さん)

【第2期第9陣】10月15日~21日 支所職員など12名(内ならコープの方2名)

盛山さん(北枚支所)、山田さん(鶴見支所)、釘岡さん(鶴見支所)、内方さん(寝屋川支所で寝屋川市の配達担当)、澤田さん(平野支所)、坂田さん(平野支所)、三津さん(都島支所で都島区の配達担当)、南さん(福祉事業部)、西川さん(ならコープ)、山本さん(ならコープ)、駒走さん、酒井さん



ジタブルセンターの駒走さん

初めは、需要はないんじゃないかなあと半信半疑でしたが、あつという間に24本分の裾直しの依頼があつたのには驚きました。聞く物資で、直しがした物がつたけれど、ミシンや裁縫道具などが無く困っていたそうです。(10月19日 大槌町 べ

東京からボランティアに来られた橋内さんは電動ミシン2台を持ち込み、仮設住宅の方の縫い物をされました。メンバーで受付や、メジャーを使つての採寸、まち針止めなどをお手伝いさせていただきました。



左が橋内さん

メジャーを使って採寸のお手伝い(パル企画の酒井さん)

ワカメ収穫目前に震災にあつた...

5月からのパルコープ職員ボランティア活動は、11月初旬まで合計24陣(べ283名)になりました。毎日の活動感想レポートを抜粋でご紹介します。